

業務説明資料

1 件 名 森の高齢化・森林資源循環可能性調査事業

2 履行期限 契約の日から令和9年3月31日まで

3 履行場所 浜松市内

4 目的

市内森林の林齢（木の年齢）は、60年以上が約7割となり森の高齢化（大径材化）が進んでいる。本調査により、市内民有林の大径材化の実態を把握するとともに、林齢平準化に向けた有効的な施策を検討する。

5 対象森林の範囲

対象の範囲は以下のとおりとする。

浜松市内の民有林 約 81,000ha（国有林を除く）

6 業務内容

森の高齢化（大径材化）について調査し、森林資源の循環可能性について検討する。

（1）市内民有林における高齢化（大径材化）の状況分析

①森林簿やリモートセンシング等の各種データ活用により、市内民有林の高齢化について分布図を作成。樹種、路網からの距離、傾斜等の項目から、エリアごとの木材生産の適否について整理する。

②市内民有林の高齢化における課題の把握と解決に向けて必要となる施業内容や量、施策の方針案について作成する。

（2）大径材の生産・加工可能性の実態調査

①市内木材生産事業者への調査により、6地区（天竜・春野・龍山・水窪・佐久間・引佐地区）の大径材の現状や搬出可能性、大径材の定義について整理する。

②市内製材事業者（10社程度を想定）への調査により、木材加工設備の保有状況と加工能力を把握。流通・コスト・活用面等の課題について整理する。

（3）大径材流通・利活用に関する先進事例調査（それぞれ2，3者程度を想定）

①他地域における森林の高齢化（大径材化）解決に向けた計画の策定状況や解決手法について調査する。

②当地域及び他地域における大径材の活用事例・市場評価（一般材と大径材との差異等）、国内外におけるニーズについて調査及び比較を行う。

（4）森林資源循環に向けた中・長期分析

①調査結果に基づき、高齢化の状況や木材生産の適否、今後必要となる施業、管理方針、森林が持つ環境価値等の観点から市内民有林のゾーニングマップを作成する。

②将来的な資源量の推移・需要の動向等を見据え、調査結果の分析に基づき、市内林

業における大径材の課題やその活用手法、林齢平準化に向けた市内民有林の施業における中・長期の施策の方向性を盛り込んだ報告書を作成する。

③上記②の報告書について、図表等を用いた分かりやすい要約資料を作成する。

④林齢平準化の必要性や今後の市内民有林の施業や管理方針について分かりやすくまとめたパンフレット等を作成する。

7 成果品

- (1) 業務完了報告書
- (2) 各種調査結果
- (3) ゾーニングマップ (PDF 及び Shape ファイル)
- (4) 報告書
- (5) パンフレット等
- (6) 調査結果と報告書の要約資料 (A4 数枚程度)
- (7) 電子データ ((1) ~ (5) 及び調査に付随する資料一式)
- (8) その他市長が必要と認めるもの

※なお、状況分析や実態調査については8月中に一次調査結果を提出すること

8 その他

本業務説明用資料に明記なき事項、または、業務上疑義が生じた場合は、双方協議により業務を進めるものとする。